



135・232通信

大二中を分断する道路計画を考える会

代表 鈴木達夫 東京都練馬区東大泉 6-18-3

連絡先 鈴木 03-5934-5658

2025年(R7)10月20日発行 Vol. 20

事業概要および測量説明会 11月7日・8日に区が開催

地域の声を区にぶつける、最大にしておそらく唯一の機会。ぜひ参加を!

大泉第二中学校の敷地を分断する都市計画道路 補助135号線・232号線について、さる3月に取組方針が策定されたことを受け、来る11月に「事業概要および測量説明会」が開催されることが、区土木部から発表されました。日程は以下の2回、同じ内容で行われ、誰でも予約なしで参加できます。

日時 [1回目] 11月7日(金) 19:00 ~ 20:30 (開場 18:30)

[2回目] 11月8日(土) 10:00 ~ 11:30 (開場 9:30)

場所 練馬区立勤労福祉会館 1階 集会室

(練馬区東大泉 5-40-36、大泉学園駅南口から徒歩2分)

地域全体を大きく変える計画。誰もが当事者、お知り合いにも呼びかけを!

ところが、区からの開催案内のチラシは、道路予定地が敷地にかかる地権者の方と、そこから両側30m幅の測量にかかる可能性のある方にのみ戸別配布され、その他の地域住民には区の公式サイトで知らされるのみとのことです。もちろん、地権者と沿道住民の方は本件の最大の当事者ですが、これは「事業概要」の説明会でもあります。

そしてこの事業には地域全体の「まちづくり」がセットになっており、沿道の建物高さ制限の緩和をはじめ、大二中と地域全体の生活環境を大きく変えるものになると予想されます。いわばこのまちの「百年の計」を決めるような大論点ですが、地域への事業概要の説明は、区の工程表上は今回が最初で最後と考えられます(次ページ参照)。それなのに、また大二中の保護者説明会(今年1月)のように、こっそりやり過ごして「地域住民の合意は得られた」ことにするのでしょうか?

計画線上および沿道にお住まいの方はもちろん、それ以外の地域住民や通勤通学者も当然、誰もが当事者で、意見を言う権利があります。是非お友達お知り合いにもどんどん広めましょう!



↑赤点線で囲まれた一帯が「重点地区まちづくり計画を検討する区域」とされている

問題だらけであることは何一つ変わっていません。計画の見直しを迫ろう!

そもそも、区の策定した「取組方針」はあくまで区の内部における手続きの区切りであり、これから正式決定である事業認可までは少なくとも2年程度を要します。また、取組方針自体も、大二中の敷地を分断し飛び地まで作るという無茶な案に加え、交通量調査を6年間も実施せず、区議会で実施を迫られても逃げの答弁に終始するなど、大きな問題がいくつも積み上がったままです。地域との合意という点では、取組方針(素案)に賛成の署名226筆に対し、撤回を求める署名3,365筆と、地域の民意が推進反対であることは明らかです。(裏面へつづく)

(表面よりつづく) 「そもそも必要な道路なのか?」「大二中に無理を強いてまでも作る理由があるのか?」——必要性への疑問や、大二中と地域環境への影響の懸念を投げかける絶好の、そしておそらく最大にして最後の機会ですので、みなさま是非、今からお説明の上ご予定ください。

☆情報はインターネットでも発信しています。ぜひご覧ください⇒

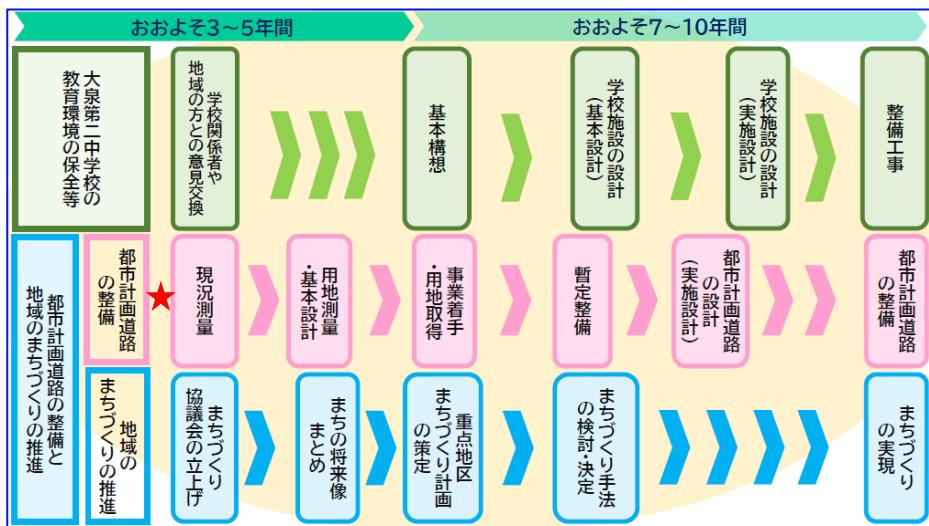


OIZUMI135232

【参考】道路計画の工程表 (練馬区資料から引用)

図のとおり、補助135号線・232号線の道路計画は、大二中の再建・地域のまちづくりと一体で進められます。大二中の再建にあたって4階建が建てられるよう、それに先がけて土地の用途地域を変更する必要があるため、道路整備→用途地域の変更→大二中再建とまちづくり計画、と進んでいきます。そして今回の説明会は、道路整備の最初の工程である現況測量に先がけて行われるものです(図中★マーク)。

- ・上段 大二中の工程
- ・中段 都計道の工程
- ・下段 まちづくりの工程



沿道はどう変わる?~既存の15m道路の例から
土地の用途地域が変更され、高さ規制が緩和されたら、まちはどう変わるでしょうか。左の写真は、補助135号線と同じ15m幅の道路である、新青梅街道の様子です。約5階建までの建設が可能になるので、道路が通ればゆくゆくはこのような街並みになっていくかもしれません。

【注目】交通量調査の推移 ~着実な減少傾向が明らかに

2003年から数年おきに実施してきた交通量調査を、区は2019年を最後に実施していません。区議会で複数の議員が実施を強く求めたにもかかわらず頑なに拒み続けているため、当会では区の調査基準に基づく調査をさる5月に実施しました。2019年までも着実な減少傾向が見られましたが、最新の調査では2019年比でマイナス11%強と、減少が続いていることが明らかになりました。

■学芸大通り 駅南口～富士街道の中間地点にて、7時～19時の通行車両数を計測

2003年～2019年: 練馬区調査、 2025年(5月): 大二中を分断する道路計画を考える会調査

歴年の調査	2003年	2008年	2010年	2013年	2014年	2019年	2025年		
	7,263	7,392	7,268	6,826	6,426	5,771	5,120		
前回調査からの増減率	1.78%	-1.68%	-6.08%	-5.86%	-10.19%	-11.28%		2003年から	-29.51%
前回調査からの経過年数	5年	2年	3年	1年	5年	6年		の増減率	22年

